

道徳教育地域支援委託事業実施報告書 (平成29年度)

1 学校の概要

- (1) 学校名 さぬき市立志度小学校
 (2) 所在地 香川県さぬき市志度 7 2 7 番地
 (3) 学年別子ども生徒数及び学級数、教員数 (平成30年2月1日現在)

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	特別支援学級	子ども生徒数計	教員
3学級 75名	3学級 93名	3学級 88名	3学級 87名	3学級 106名	3学級 94名	3学級 6名	549名	32名

2 研究主題等

(1) 研究主題

子どもの自尊感情を高める道徳教育
 ～「やさしさ」と「やる気」を育てる指導の工夫～

(2) 研究主題設定の理由

本校では、これまで「思い合う心もち、明るく素直で、自ら学ぶ子どもの育成」をめざし、「やさしさいっぱい やる気いっぱい 楽しい志度小学校」を合言葉にして、全教育活動の中で、思い合う心と自主性を育てる指導に取り組んできた。昨年度は、子どもの実態を基にした指導内容の重点化を図り、道徳の時間と特別活動や各教科などの学びをつなぐための指導計画(志度っ子プラン)を作成した。そして、そのプランに基づき、道徳授業に関する研究を中心にして、一人一人の子どもが活躍できる指導の充実に取り組んだ。その結果、県学習状況調査(11月)の質問紙調査の設問「自分には、よいところがあると思いますか。」(自尊意識)で肯定的回答をした子どもの割合が、県平均(3～6年全体の平均値)と比べて、一昨年度は約17ポイント低かったのが、昨年度は約6ポイント改善し、差が約11ポイントになった。教職員の実感としても、一昨年度に比べて、「学校全体の雰囲気明るくなってきた」「学習に前向きに取り組む子どもが増えてきた」などを感じる場面が増えてきた。これは、昨年度の取組の成果であると考えている。しかし、依然として、県平均との差は大きく、20ポイント以上低い学年もあった。

そこで、今年度も、昨年度の成果や課題を分析しながら、子どもの自尊感情を高めるために、どの子どもも自分のよさや可能性に気付き(自己理解)、自分に自信をもって集団の中で自分を生かす力(自己有用感)を育てる道徳教育の在り方について研究する。具体的には、今年度作成した「志度っ子プラン」に基づいた道徳授業等の実践を通して、子どもに「やさしさ」と「やる気」を育てる指導の工夫について研究していきたい。

(3) 研究内容及び方法

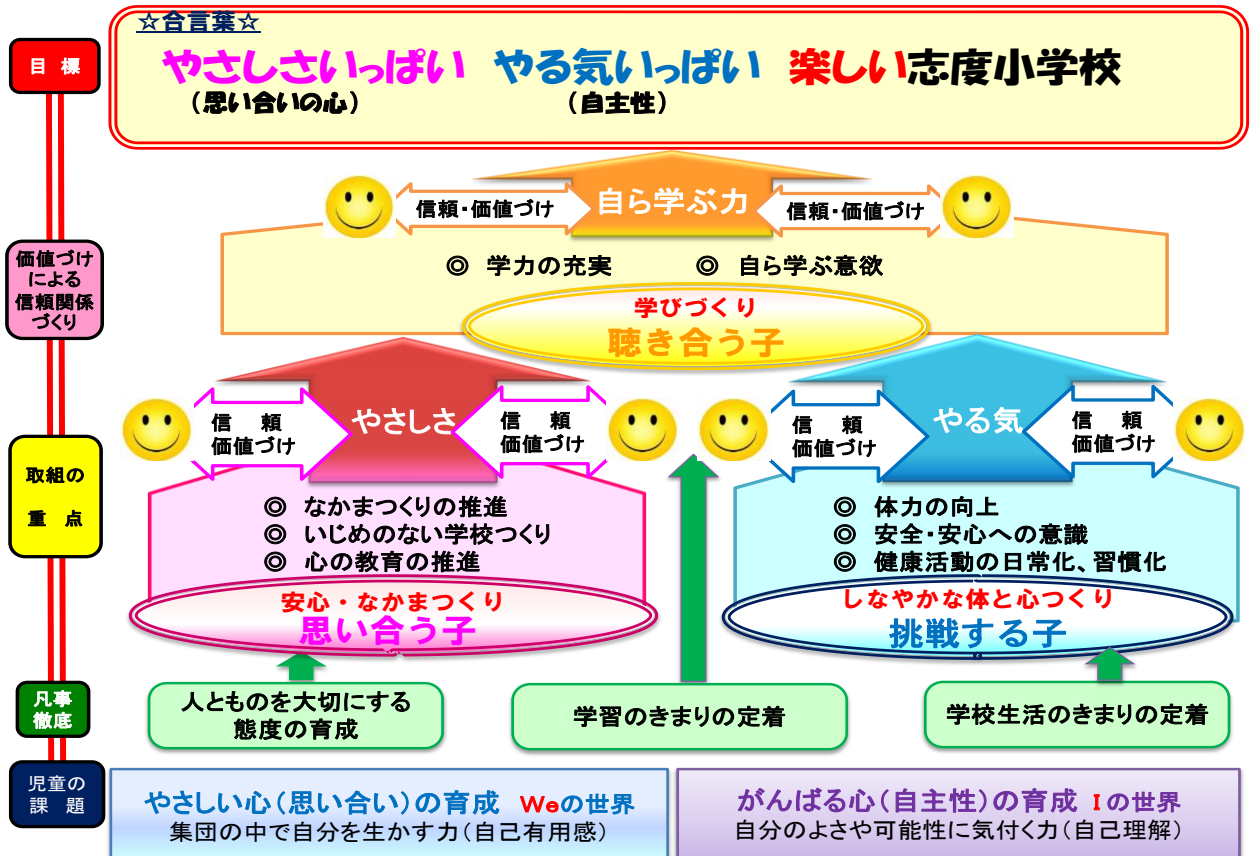
① 「志度っ子プラン」に基づいた道徳授業の充実

- 子ども一人一人が活躍できる指導の工夫
- 評価に生かす道徳ファイルの活用の工夫
 - ・ 研究授業を各学年1本に絞り、学年団で協力して作り上げていく
 - ・ 道徳の時間の充実… 自分の考え方・感じ方を明確にする表現・交流活動の工夫
実生活とつなぐ授業展開の工夫

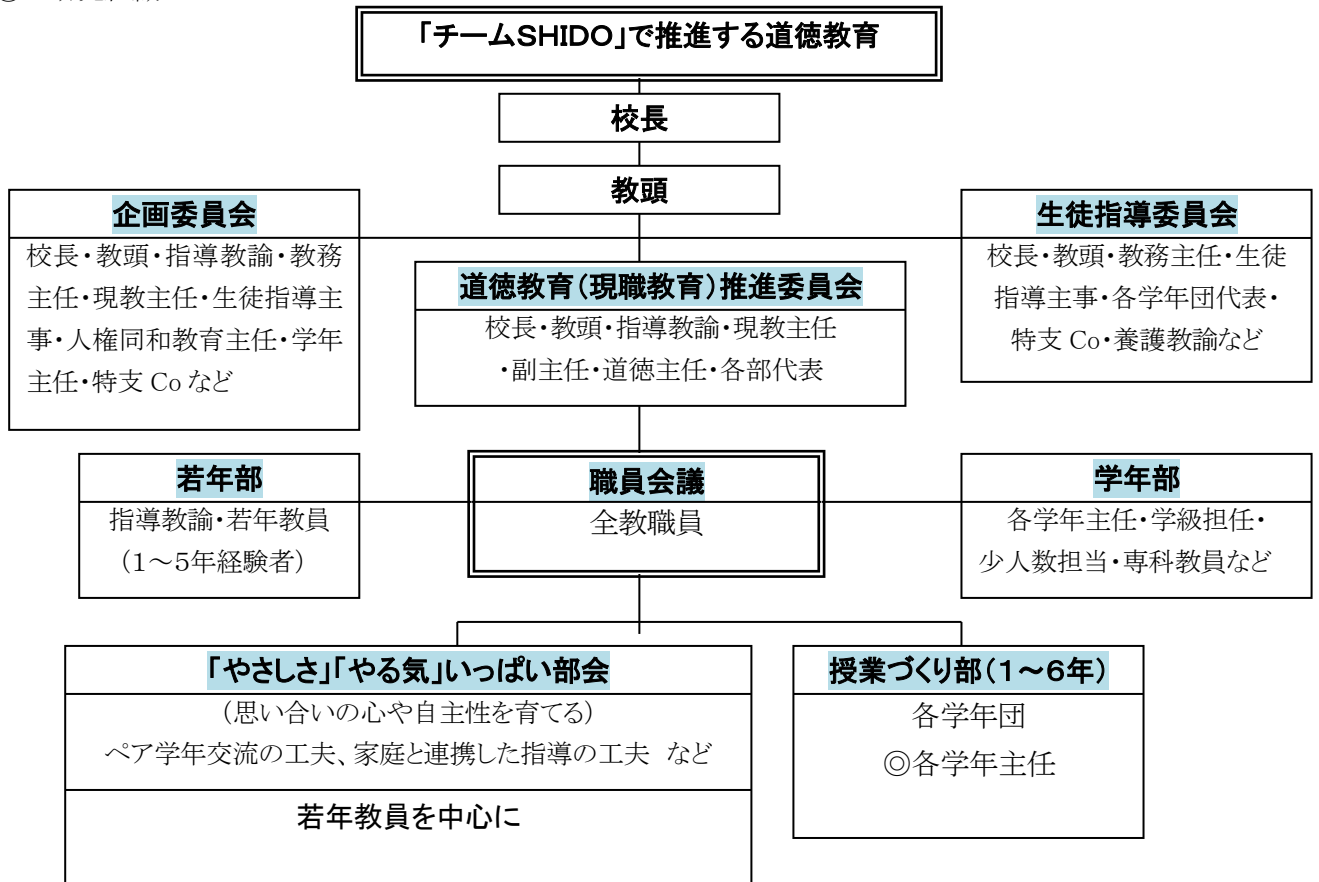
② 「やさしさ、やる気いっぱいプロジェクト」の充実

- ペア学年交流の工夫
- 家庭と連携した指導の工夫
 - ・ あいさつ運動や異学年交流、体力づくり活動等を通して、思い合いの心や自主性を育てる

③ 全体構想



④ 研究組織



3 研究実践

① 「志度っ子プラン」に基づいた道徳授業の充実

【第2学年の実践】

第2学年い組 道徳学習指導案

指導者 松岡 清美

- 1 日時 平成29年6月28日(水) 第5校時
2 主題名 わがままをしないで (資料名「そばと夕立」 出典 香道研)
3 主題について

(1) 本主題でねらう内容項目は、A- (3) 「節度、節制」である。学習指導要領には、「健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。」と示されている。この内容は、大きく二つからなっており、一つ目は、基本的な生活習慣に関すること、二つ目は、進んで自分の生活を見直し、思慮深く考えながら自らを節制していくことである。

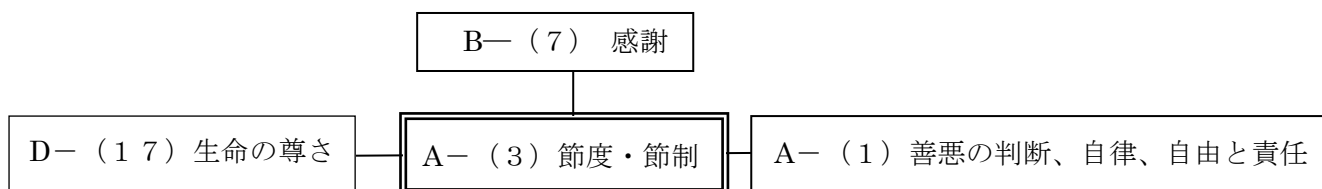
本主題では、特に二つ目の内容について指導していきたい。自己の確立には、自分自身を内省することは不可欠な要素である。2年生の段階では、わがままをしないで規則正しい生活をしていくことが自分にとって大切であり、そのような生活が気持ちのよいことに気付かせ、基本的な生活習慣を確実に身に付けることができるようにする必要がある。

本校の学校教育目標は「思い合う心をもち、明るく素直で、自ら学ぶ子どもの育成」である。これを受けて学級目標を「みんなのために ～よく聞こう、よく考えよう、ルールをまもろう～」とし、友達のことを大切に、みんなのために自分はどうすべきかを考えながら、よりよい学級をつくっていくことを目指している。

児童は、わがままをしてはいけないということを、頭では分かっているにもかかわらず実行できないことがある。そこで、本主題を通して、わがままをせず、心も体も健康で気持ちよく過ごせるよう、より確かな実践力を付けることが必要であると考えた。

そこで、本資料では、わがままをしてはいけないという自分の立場についてだけを考えさせるだけでなく、相手のことを思って注意や忠告をしている立場の気持ちも考えさせることで、注意や忠告をしてくれる人の思いに気付き、素直に聞き入れようとする意欲や態度を育てたい。

関連価値としては、夕立の時、みんなが身を守ろうとしたことや、反対にそばは言うことを聞かず、最後にしおれてしまうということからD- (17) 「生命の尊さ」、そばが正しい判断ができなかったことからA- (1) 「善悪の判断、自律、自由と責任」、やなぎが自分のことを心配してくれていることに気付いたそばの気持ちからB- (7) 「感謝」と関連させて指導していきたい。



(2) 本学級の児童(男子16名、女子16名、計32名)は、明るく活発で、何事にも興味を持って一生懸命に取り組む。しかし、まだまだ自己中心的な児童が多く、自分の思いばかりを主張し、相手の気持ちを考えて行動することができないことがある。つい面白さが先に立ち、教室内を走り回って友達にけがをさせてしまったり、並ぶ時に順番を守らず割り込んだことで言い合いになったりするなど、身勝手な行動が時々見られる。そして、それを周りの人から注意されても「自分には関係ない。」とか「自分だけじゃない。」などと、注意や忠告を素直に聞き入れず軽く聞き流してしまったり、言い返したりするような場面もある。また、授業中時々、「嫌だ、やりたくない。」と言って、友達を邪魔をしてしまう児童が1名いる。自分のためやみんなのために、わがままを言わずに頑張れた時はほめながら、頑張りがつながらるように支援している。

ただ、どの児童も互いに気持ちよく生活していくためには、わがままをせず、みんなのことを考えながら行動しなければいけないということは、頭では分かっている。分かっているものの、どうしても自分の感情が先に立ち、自己抑制がなかなかできないのが現状である。したがって、注意や忠告をする側の気持ちや思いまで考えて、素直に聞き入れている児童は少ないであろうと考える。

(3) 児童は、資料を読んだ時、「そばは、すごく威張っていて自分勝手だ。」「やなぎの言うことを聞かなかったからしおれてしまったんだ。」と感想を持つことが予想される。

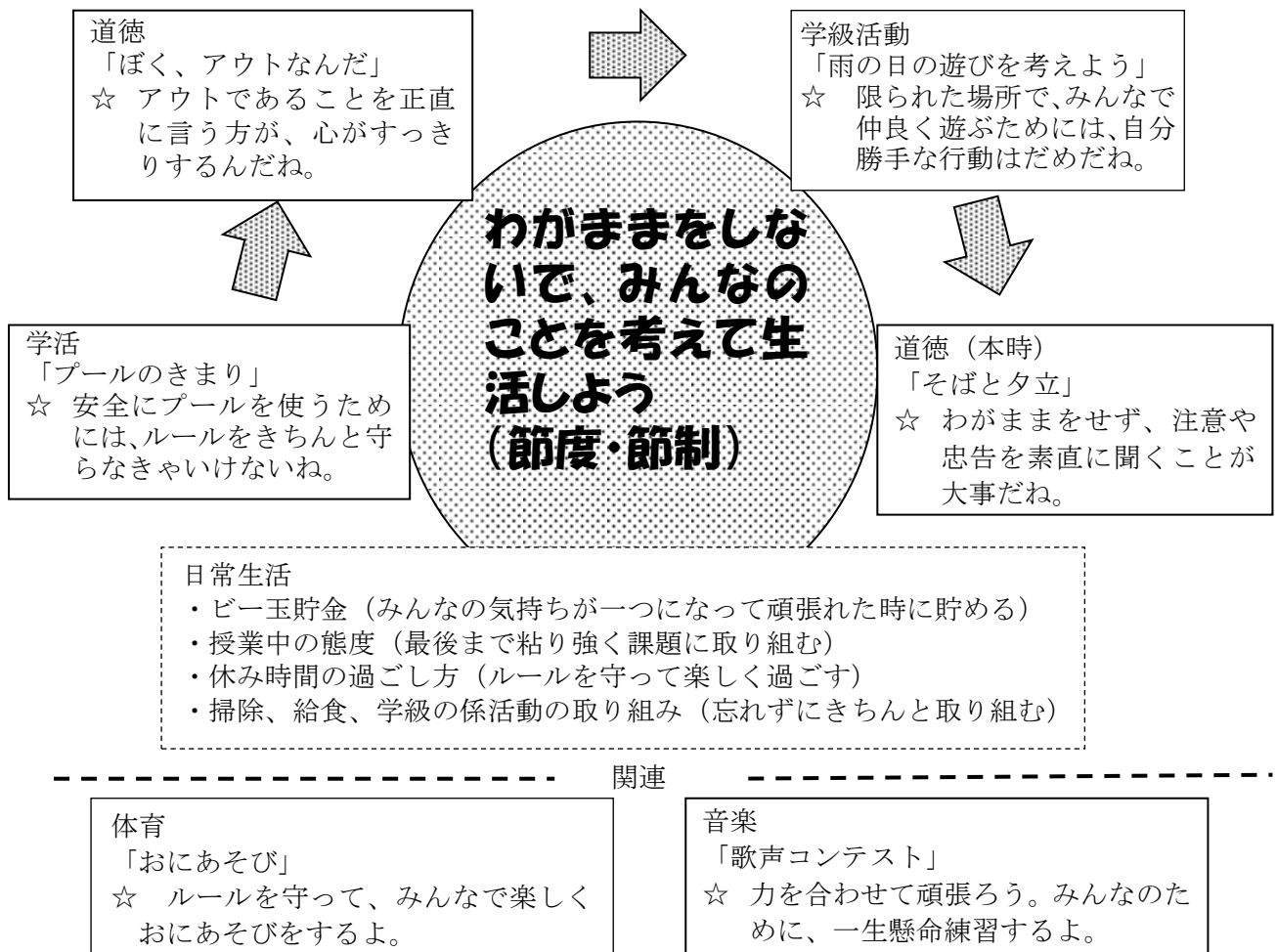
そこで本時は、単に、そばは自業自得だということで終わらせることがないように、事前にそばは約75日の命で花を25日程度咲かせることや、やなぎは、何千年も生きるということを紹介し、命の長さの違いや経験の違いがあること、そばにとって夕立は初めての経験であることを押さえ、それぞれの立場を理解できるようにしておく。

それらを踏まえた上で、周りのみんなが「はをさげろ、花びらをとじろ。」と言ったのに頭を下げようとしないうそばを見て、やなぎが再度「きみ、花をとじなさい。はをたれなさい。」と言ったのはどういう気持ちがあったからかを考えさせる。やなぎは、決してそばに偉そうに言っているのではなく、夕立の怖さを知っているからこそ、そばのからだを心配し、案ずるが故の真剣な言葉であることに気付かせたい。そうしたやなぎの気持ちを考えさせることを通して、これからは注意や忠告をしてくれる人の思いを考え、素直に聞き入れてわがままをせず、互いに気持ちのよい生活をしようという意欲や態度を育てていきたい。

事前に児童には、2年生になってわがままをしてしまったことをワークシートに書かせ、自分自身を振り返らせておき、学習後に自分を見つめ、今後の実践に向けての意欲付けに役立てる。そして、事後には、学校生活の中で児童の言動を積極的に見取り、教師や友達の注意や忠告を素直に聞いた時にはしっかり賞賛する。また、本時のワークシートを持ち帰って学習内容を保護者にお知らせし、家庭でも協力してもらうことで、学習したことが一過性ではなく、継続して実生活に生かせるようにしていきたい。

4 志度っ子プラン関連図

(6月) 第2学年の目標 うそをついたりごまかしをしたりしないで、素直に伸び伸びと生活しよう



5 本時の学習指導

- (1) ねらい 注意や忠告をしてくれる人の気持ちを考えることを通して、わがままをせず注意や忠告を素直に聞き入れ、自分も周りの人も気持ちよく生活しようとする意欲や態度を育てる。
- (2) 準備物 挿絵、ワークシート
- (3) 学習指導過程 (◎・・・研究主題に関わる支援・援助活動)

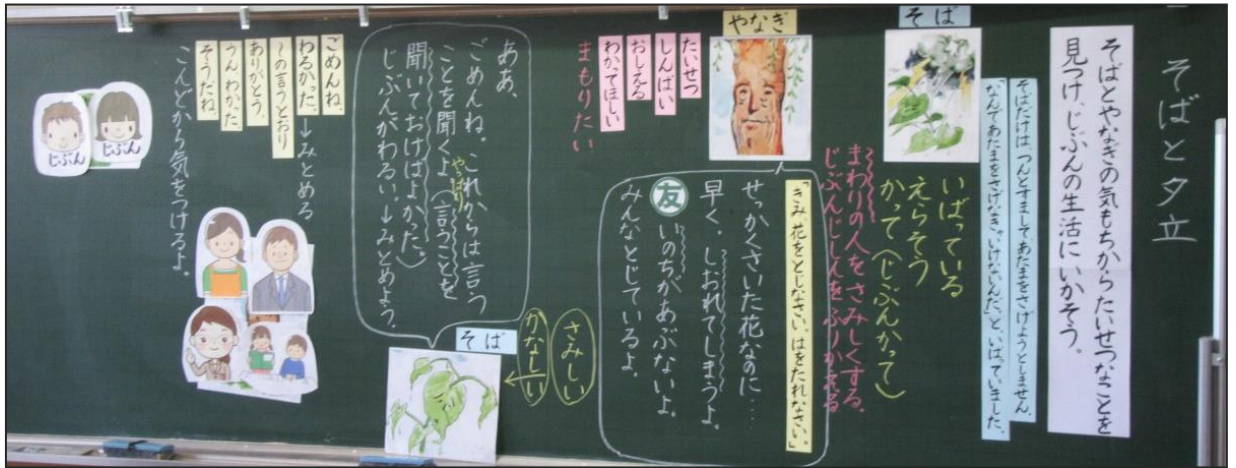
学習活動	児童の意識の流れ	教師の支援と評価
1 資料を読み、学習問題をつかむ。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">そばは、威張ってばかりで自分勝手だな。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">どうして自分のからだを守らなかったのだろう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事前に、今までの自分を振り返り、ついわがままをしてしまったことを書かせておく。 ○ 資料を本時まで読んでおき、感想を書かせておく。 ○ そばややなぎの気持ちを考えやすいように、挿絵や考えさせたい言葉を黒板に貼りながら範読する。
2 夕立の時のそばとやなぎの気持ちを考える。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">そばとやなぎの気持ちから大切なことを見付け、自分の生活に生かそう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ そばややなぎの気持ちを考えやすいように、挿絵や考えさせたい言葉を黒板に貼りながら範読する。
(1) そばの気持ちを考え発表する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・やなぎの言うことなんて聞かないよ。何で頭を下げなきゃいけないんだ。 ・きれいな花なんだから閉じたくないよ。 </div>	<p>(発) やなぎは、どんな気持ちで「花を閉じなさい。葉をたれなさい。」と言ったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ やなぎの気持ちを板書した後、そこにはどんな気持ちがあるのかを短い言葉でまとめ、終末の振り返りに生かせるようにする。
(2) 注意をしているやなぎの気持ちを考え、ワークシートに書く。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・夕立は普通の雨とは違うよ。危ないんだよ。 ・今閉じずに夕立に打たれたら二度ときれいな花を咲かせることはできなくなるんだよ。 ・わたしは、きみのことを思って言っているんだよ。辛い思いをさせたくないんだ。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ○心配 ○相手を大切に思うからこそ ○一緒にいい気持ちで過ごしたい </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ やなぎの気持ちを板書した後、そこにはどんな気持ちがあるのかを短い言葉でまとめ、終末の振り返りに生かせるようにする。
(3) しおれてしまった後のそばの気持ちをワークシートに書く。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・やなぎさんは、夕立がどんなに怖いことなのか分かっていたからぼくに注意してくれたんだ。自分のことしか考えてなかったぼくが悪いよ。言うことを聞いておけばよかった。 ・みんなぼくのことを心配してくれていたんだね。ありがとう。これからは、ちゃんと素直に聞くよ。 </div>	<p>(発) しおれてしまったそばはどんな気持ちになったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ しおれてしまったそばを見ているやなぎの気持ちについても触れる。 ○ わがままは、どうしていけないのかという本質的な部分も問い返し、自分もみんなも気持ちよく生活することが大事であることを押さえる。
3 夕立が来る時のそばとやなぎの会話を作り替え、役割表現をする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ☞ きみ花を閉じなさい。葉をたれなさい。 ☞ うん、分かった。今すぐそうするよ。 ☞ ありがとう。聞き入れてくれて。夕立が過ぎたら、またきれいな花を見せてよ。 ☞ うん。やなぎさん、ぼくのことを心配してくれてありがとう。ちゃんと花を閉じるよ。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 最初は、児童がそば役、教師がやなぎ役になって役割表現をし、その次は児童同士で行いながら、そばもやなぎも互いにいい気持ちになったことを確認する。
4 自分を振り返る。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・今までは、注意されたら腹が立ったり、言うことを聞かなかったりしたことがあったけど、これからは素直に聞き入れたいな。 ・注意をしてくれるのは、自分のことを大切に思ってくれているからなんだということが分かったよ。わがままをせずに、みんなで気持ちよく過ごしていくよ。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料の話から日常の自分の生活へ意識を移行しやすいように、やなぎの立場を家族や先生、友達、そばの立場を自分としてイメージできるようにイラストを提示する。 ○ 自分自身を振り返りやすくするために、事前にわがままな行動をしてしまったことを書いたワークシートを見返して考えるように助言する。

(4) 評価

わがままをせず、注意や忠告を素直に聞き入れることの大切さについて気づき、自分の生活に生かそうとする意欲を持つことができたか。

6 指導の実際

(1) 板書



(2) 児童の様子



そばさん、早く花を閉じなさい。葉を垂れなさい。

そばさん、花を咲かせることができなくなるから、葉を閉じて。命が危ないよ。

やなぎさんの言うことを聞いていればよかった。自分のことしか考えてなかったよ。

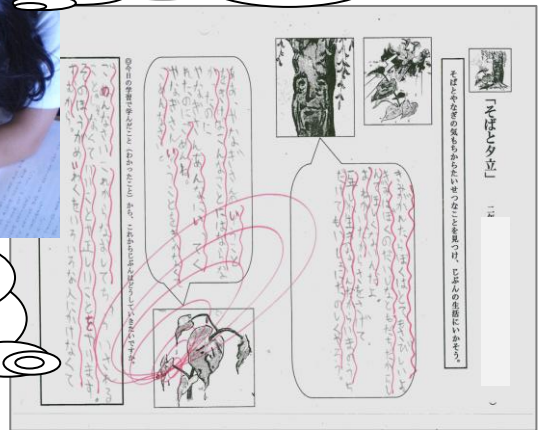
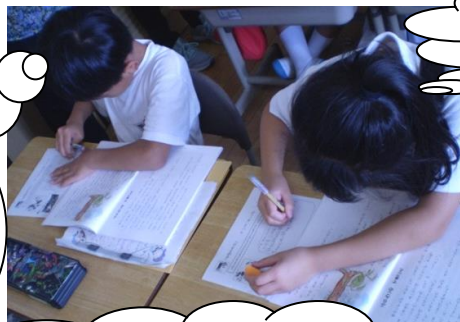
うん、分かったよ、やなぎさん。言うてくれてありがとう。ちゃんと自分のことを大切にするよ。



お父さんやお母さんに言われたら、すぐ手伝うよ。

注意をしてくれるのは、自分のことを大切に思ってくれているからなんだね。だから、みんなで気持ちよく過ごしていけるように、わがままをしないようにするよ。

これからは、人に迷惑をかけないようにして、言われたことをしっかり聞くよ。(児童WSから)



7 成果と課題

- 安心して役割表現が行えるよう、ルールを決めて実践を積んでいた。そのため、そばがやなぎの優しさに気づき、忠告を素直に聞き入れる役割表現が、上手にできていた。
- 事前に、そばとやなぎそれぞれの命の長さや経験の違いがあることを理解させた上で、両方(心配している側、気付く側)の立場を考えさせたので、そばの単なる自業自得の話ではなく、やなぎの相手を思いやる気持ちにまで迫ることができた。
- 意欲化を図り、実生活に生かすための工夫として、事前の「わがまま」についてのアンケートが有効であった。
- ▼ 役割表現で出てきた「ありがとう。」「君って優しいね。」「気を付けるよ。」等の言葉をこれからの実生活に役立たせるために、板書として残すことが必要である。
- ▼ 役割表現を、代表児童だけでなくペアでも行い、全員がよい気持ちになれるような工夫を考えたい。

- 1 日時 平成29年11月22日（水）第5校時
- 2 主題名 差別や偏見を見抜く目をもとう（資料名「やっぱりおかしいよ」）
- 3 主題について

(1) 本校の人権・同和教育目標の一つに、「差別のない社会を実現していく意欲と実践力を育てる」がある。それを受けて、5年生の学年目標は「差別や偏見に気付き、公正公平な態度で友達と活動できる。」である。また、道徳における学年の重点目標は、「互いのよさを認め合い、信頼し合っ
て、ともに伸びていこうとする」である。

この主題でねらう中心内容項目は、「公正公平・社会正義」である。新学習指導要領では、C-(13)「誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努めること。」と示されている。内容項目の概要に「集団や社会において公正、公平にすることは、私心にとらわれず誰にも分け隔てなく接し、偏ったものの見方や考え方を避けるよう努めることである。」とある。また、そのために「自他の不公正を許さない 断固とした姿勢をもち、集団や社会の一員として力を合わせて積極的に差別や偏見をなくそうとする努力が重要である。」とも記されている。

差別や偏見について考えてみると、その根底には自己中心性があり、それに利害がからまっていることが多い。そのようなときに、公正公平に判断していくためには、人間の欲望に流されやすい弱い面や欲望がからんだ人間関係のもろさに視点をあてることが大切になる。そこで、「正直・誠実」「友情・信頼」「希望と勇気、克己と強い意志」の価値とも関連させて集団と関わる力を育てながら、友達同士の間人間関係を通して知らず知らずに生じている差別や偏見が相手を傷つけることに気付き、進んで解消していこうとする心情や意欲を育てることが必要だと考える。

本資料「やっぱりおかしいよ」は、のぞみ、けい子、ちはるの3人のそれぞれの立場から本当の友達関係について考えることで「差別や偏見を見抜く目」を育てていこうとするものである。子どもたちの生活の中でも起こりがちな内容であり、自分と重ねて考えやすい場面構成になっている。

中心価値	関連価値
C-(13)公正公平、社会正義	A-(2)正直・誠実 B-(10)友情・信頼 A-(5)希望と勇気、克己と強い意志

(2) 本学級の子どもたちは、明るく素直で男女の区別なく仲良くできる。しかし、5年生としては考え方や行動に幼さが残る子が多く、深く考えずに行動したり、ものを言ったりして、友達を傷つけたり、一方的に負担を強いていることに気が付かなかつたりということがあある。教師が指摘すると気が付いて、素直に謝ったり、その場で行動を改めたりするのだが、目の前に楽しそうなことがあると、また同じようなことを繰り返している。高学年ともなれば、差別や偏見がいじめなどの問題につながることを理解できるようになってくる。しかし、子どもたちの様子を見てみると、自分の行動のなかには、そういった差別や偏見につながるものがあることには気が付いていないように思われる。

また、本学級には、肌の色の違いから、心無い言葉をかけられた経験がある児童が2名いる。2人をよく知っている学級の子どもたちが、その子たちに差別的発言をすることはほとんどなくなって

はいる。しかし、うち1名は、気にしないふりをしているため、学級以外の場所でよくそういったことを言われているのを耳にする。それを、おかしいと声をあげられる子も少ないが、本人が笑顔だから、おかしなことだと気が付かない子が多いのも現実である。

思春期の子どもたちは、いじめなどの場面に会ったときに、ともすると傍観的な立場に立ち、問題から目を背けることも少なくない。今、友達の言動が気にはなっても、悪気はないからと受け入れている子どもたちが、やがてこうした問題に向き合った時、傍観者になる恐れがある。こういった問題は、自分自身の問題でもあるという意識をもたせることが大切である。友達のありのままを受け入れることができている子どもたちだけに、この時期に、本当の意味での友達関係について考えていくことは大切であると考えます。

- (3) 指導に当たっては、単に「自分の利害で動いてはいけない」というのではなく、「知らず知らずのうちに友達を偏った目で見ることになっていたり、なにかおかしいと気が付いていてもそれが差別的な意識から来るものだと気が付いていなかったりするということがおかしいことなんだ。」と気付けるようにしたい。そのため、人気者だが気の強い「ちはる」、誰にでも優しいが気の弱い「けい子」、おかしいことをおかしいと言えずもどかしく思っている「のぞみ」の3者の立場を明確にした上で「おかしい」と思うことについて話し合っていく。そうすることで、根底に、差別的な意識があったり、長いものには巻かれる的な意識があったりすることに気付けるようにしたい。

この資料から「ちはるたち」のおかしさにはすぐに気が付くだろう。しかし、本学級の場合「けい子」や「のぞみ」の立場の子も多い。そういった自分たちの姿と重ね合わせながら、三者の立場で考えることで、こういった差別意識を生み出しているものの中には、傍観者の存在が大きいこと、自分の気持ちを伝えることも大切だということに気付かせていきたい。

そこで、「ちはる」を単なる意地悪な子と片づけるのではなく、「ちはる」のいいところにも注目させておくことで、嫌だと言われないことで、調子に乗っていた部分はないか、その根底には、「けい子ならやさしいからやってくれる」という自分勝手な言い訳があったのではないかとということに気付かせたい。また、傍観者であった「のぞみ」に対しては、大好きな学級がなんだかおかしくなってきたということから、このままだこのクラスはどうなっていくのだろうという言葉投げかけ、傍観者でいることに対しての問題意識をもたせたい。「けい子」に対しては、「言えないといけない、言わないとわかってもらえない」といった決めつけにならないように配慮した上で、時には、自分の気持ちをはっきり言うことが必要ということに気付かせたい。その背景には、言ったらきっとわかってくれる、みんな知らんぷりしないという信頼関係が必要なので、「ちはる」「のぞみ」「けい子」の順に考えていき、「ちはる」「のぞみ」の気付きから、きっと、気持ちを分かってくれるという安心感をもったうえで「けい子」に必要なことを押さえていきたい。三者の気付きから、きっとこのクラスは、また、みんなの居場所のある素敵なクラスに戻れそうだという快感情で終わるとともに、5いがもっと素敵なクラスになるにはどうすればよいか、と自分たちの生活に返していきたい。

4 志度っ子プラン関連図

第5学年の目標

- ☆互いのよさを認め合い、信頼し合って、ともに伸びていこうとする。
- ☆自己や集団の目的を考え、それに向かって上級生として自分から進んで行動する。
- ☆相手やその立場に合った正しい言葉づかいや行動をし、上級生として優しい行動を心がける。

道徳

「やっぱりおかしいよ」(本時)

- ☆ 相手の気持ちを考えて、みんなが認め合えるクラスにしていきたいな。

源内

「日盛の里での交流準備をしよう」

- ☆喜んでもらえるよう友達と力を合わせて準備をするよ。

学級活動「友達再発見」

- ☆ 友達のこと、知っているようで知らなかったんだね。もっとお互いのことを分かりあいたいな。

**思いあう心を大切にしよう
(親切、思いやり)**

道徳

「知らない間のできごと」

- ☆ 軽い気持ちや思いこみでものを言うと、いつの間にかそれが広がってしまうことがあるんだね。そのことで友達を傷つけて取り返しがつかなくなってしまうよ。情報の扱い方にも気を付けたいな。

道徳

「くずれ落ちたダンボール箱」

- ☆相手の立場になって行動することが大切なんだね。それには勇気も必要だよ。

日常生活

「自分たちの立てた目標に向かってがんばろう」(ビー玉貯金)

- ☆目標に向かってがんばったよ。友達のいいところもみつけれられたよ。ビー玉が増えていくのは、自分たちの成長の証拠だ。嬉しいな。

関連

音楽・朝の活動

「歌声コンテスト」

- ☆みんなの声で素敵な合唱にしよう。それぞれの役割をしっかりと考え、ナンバー1を目指すよ。

源内

「日盛の里訪問」

- ☆友達と一緒に、ディサービスに来たお年寄りと交流して、楽しかったよ。友達にもお年寄りにも感謝だね。

学行

「かがやけいのち集会」

「人権劇鑑賞」

- ☆一人ひとりが大切な存在だよ。高学年として、人権について考えていきたいよ。

5 本時の学習指導

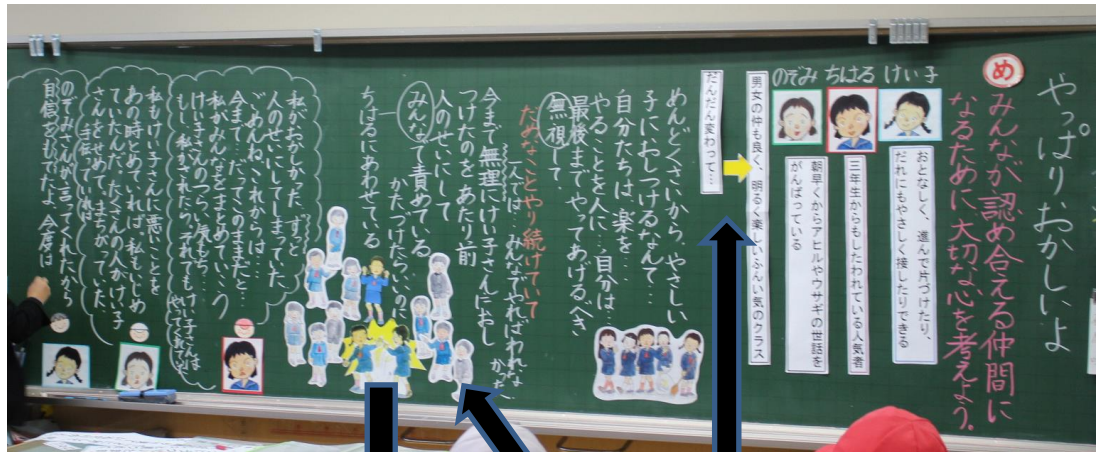
- (1) ねらい 三者の気持ちを考えることを通して、身の回りや自身の内面にある差別や偏見に気付き、進んで解消していこうとする意欲を高める。
- (2) 準備物 挿絵 文カード
- (3) 学習指導過程 (◎…研究主題に関わる支援・援助活動)

学習活動	児童の意識の流れ	教師の支援・援助活動
1 友達への接し方について、自分の生活を振り返る。	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">嫌な思いをしても、がまんすることが多いなあ。</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">友達につきつく当たってしまったことがあるよ。</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">おかしいなと思っても言えなかったことがあるよ。</div> </div>	○ 事前にアンケートを取っておくことで、こういった場面は自分の周りでも見られるということに気付いた上で、資料に入る。
2 資料を読み、学習問題をつかむ。	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;">みんなが認め合える仲間になるための大切な心について考えよう。</div>	○ 「やっぱりおかしいよ・・・。」という言葉から、学習問題を考えるよう投げかける。
3 「おかしい」と思うことについて話し合う。	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>(掃除の時間)</p> <p>毎日、けい子さんにばかり押し付けているのはおかしい。のぞみさんも気が付いているのになぜ手伝わないの。ゴミ袋は一人では重そう。遊びたいのはけい子さんも一緒だよ。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>(理科の時間)</p> <p>けい子さんが手伝ってと言ったのに無理に押しつけたのは、ちはるさんだよ。周りの人もひどいよ。けい子さんを責めるなんて。ちはるさんが人気者だからって、味方しているんじゃないかな。</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>けい子は、きつく言われると何も言えなくなっちゃったね。ちはるは、けい子が逆らわないと思っていたんだね。のぞみは、気が付いていたんだけど、黙って見過ごしていたんだね。このままではいけないよ。</p> </div>	○ けい子、ちはるの人物像を明確しておくことで、ちはるにはいいところもあるが、とった行動には、偏見の芽が潜んでいることに気付けるようにする。 ○ 掃除の時間の出来事を放置したせいで、理科の時間には、のぞみ側の人物が増えていることに気付けるよう挿絵を工夫する。 ○ クラスの雰囲気はだんだん変わってきたということから、このままでいいのかなどと問いかけ、こういったことの放置がいじめにつながることに触れる。 (発) 「もうこんな出来事が起こらないようにするには、どうすればいいのだろう。」
4 人物を選び、どうすれば「おかしい」ことをなくせるか、選んだ人物の立場で考える。	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>(けい子)</p> <p>私が、我慢していたから、ちはるさんは、気が付いてくれなかったのかもしれない。相手が間違っている時には、はっきり言わなくては。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>(ちはる)</p> <p>気持ちを考えずに、いつもしてくれるからと押し付けていたよ。それに、優しいから言い返さないのをいいことにひどいことをしてしまったな。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>(のぞみ)</p> <p>気が付いていたのに、黙っていた。おかしいことをおかしきと言わず、黙っていたのは、いじめている人と一緒だよ。</p> </div> </div> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>本当の友達として、相手の立場に立って考え、公平な目で見えて行動することが大切なんだな。</p> </div>	○ 同じ立場を選んだ友達と交流することでいろいろな考えに触れるようにする。 ◎ 全体交流では、ちはる、のぞみ、けい子の順に扱うことで、けい子の立場で考えた子が安心して発言できるようにする。 ○ 三者の立場で考えたことはいじめを起ささないためにも大切であることをおさえるが、その際に、けい子さんの扱いに配慮する。
5 学んだことから、友達への接し方で生かしたいことを書く。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>相手が何も言わなくても、気持ちを考えて相手の立場に立って考えたい。見て見ぬふりも、よくない。おかしいと思ったら今度からは、はっきり言うよ。自分も気持ちをちゃんと伝えるよ。</p> </div>	○ 公正公平な立場で違う立場の人のことが見れるよう、互いの関わりで考えるよう助言する。

- (4) 評価 身の回りの差別や偏見に気付き、進んで解決しようとする意欲が高まったか。

6 指導の実際

(1) 板書



場面把握では、周りの人数をだんだん増やしていくようにした。また、3人の気持ちを考えた後、その3人を取っても、周りの人たちが残っていることを視覚化し、全員の問題と意識付けた。



矢印を動かすことで、おかしくなった学級の雰囲気や、きっと元に戻るだろうという快感で学習を終えた。

(2) 児童の様子



けい子さんが何も言わなかったのは、優しい性格だからなんだよね。つらい気持ちを分らずにごめんね。もっとみんなのことを考えられる人になるよ。

ずっとけい子さんのせいにしていたよね。たくさんの人に責められて、けい子さん、つらかっただろうね。



ちはるさんが正しいみたいにみんなが言い出して・・・けい子さんをみんなでいじめているのと同じだと思うの。

- ・だれか困っていたら、いっしょになって「おかしいよ」って言ったり、助けたりする。知らんぷりをしない。
- ・人のせいにせず、自分に悪いところはないかと考えたい。



7 成果と課題

- アンケートを生かすことで、実態に合った授業展開ができ、我慢している子に視点を当てることもできた。
- 視覚支援を行うことで、「このままではいけない」「関係ない人は、いない」（傍観者についての気付き）という思いが強くなった。また、「（どんどんおかしい方の味方をする人数が増える視覚的支援をすることで）正しい方が悪いように見えてくる」といったいじめの核心に触れる意見を引き出すことにつながった。
- 「だって」（根拠）、「もし」（仮定）、「でも」（逆節）のカードを示したり、共感的な声かけをすることで、子どもの思考を深めることができた。
- ▼ それぞれの視点に立つて考える必要はあるが、いじめる側が悪いことは分かっているので「傍観者」に絞り「やっぱり、おかしいよ」に込められた意味を考える展開も考えられた。
- ▼ より自分のこととして考える道徳に向かっていかねばならない。「考え、議論する道徳」になるよう授業展開をより工夫する必要がある。

②「やさしさ、やる気いっぱいプロジェクト」の充実

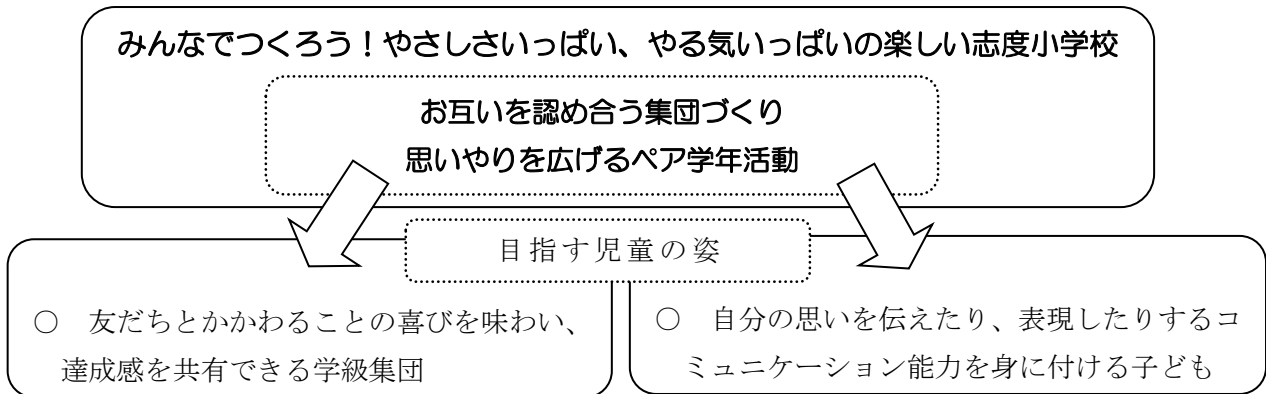
「やさしさ」と「やる気」を育てる指導の工夫

1 活動計画

(1) 目標

ペア学年活動などの異学年交流活動を通して、多くの友だちとかかわりながらなかまづくりをしていく中で、友だちの大切さや自己存在感を感じるとともに、互いに思い合う心を育てる。

(2) 重点目標



(3) 努力点

- ① 子どもたちが自他のよさや個性に気付くことができる場を意図的に設定する。
- ② 心を通い合わせ、連帯感を養う全校集会や児童会活動を工夫する。

(4) 年間計画

	シドリンピック	特別活動	教科等
4月		◎1年生へのサポート活動 ・給食(6年生) ・清掃(6年生)	◎1年生へのサポート活動 ・新体力テスト(6年生)
6月	○シドリンピック開会式 ○運動会[5/27(土)] ・学級対抗リレー ・競争遊戯 ◎ペア学年合唱コンテスト 2、4年生[6/30(金)] ◎ペアプール活動 [7/3(月)~7/7(金)]	◎読み聞かせ (上学年→下学年) ◎活動の振り返り(手紙)	○1、2年生の生活科交流活動 ・遊具めぐり、学校探険
9月		◎給食交流 ◎活動の振り返り(手紙)	
12月	◎ペア学年合唱コンテスト 1、6年生[10/31(火)] ◎スポーツフェスティバル	◎読み聞かせ (下学年→上学年)	○源内学習での交流
3月	◎ペア学年合唱コンテスト 3、5年生[12/8(金)] ◎長縄大会 [1/29(月)~2/2(金)] ○シドリンピック閉会式 (表彰)	◎ペア学年挨拶運動 [1/15(月)~1/19(金)] ◎活動の振り返り(手紙)	

2 シドリンピック

昨年度まではペア学年活動や行事が点在しているだけであり、児童がそれらにつながる意識を持つことができなかった。また、自分のクラスの勝ち負けに終始しており、異学年に対する優しさもあまり見られなかった。そこで、運動会やペア学年活動などの順位を得点化し、一年間を通して、その総得点を縦割りで競い合い、総合優勝を決めるシドリンピックを始めることにした。

【運動会】

運動会前に行った運動場の石拾いや学級対抗リレー、競争遊戯、徒競走の結果を順位ごとに得点化し、縦割りで競い合った。これにより、自分の学年の応援だけでなく、他学年の競技に対しても力を入れて応援していた。

自分の組を1位にするぞ。



応援に力をもらったぞ。

【ペアプール】

宝探しやいろいろなルールのリレーなど、いくつかの種目の中から選べるようにし、水泳が得意な児童も苦手な児童も参加できるように工夫した。ペア学年が協力して競うことで、プールで必死に泳いでいる様子を、プールサイドで見ている児童が一生懸命に応援している姿や、上学年の児童が下学年の児童にアドバイスをしている姿が見られた。実践内容を以下に示す。

宝探し、おんぶりレー、6年生によるリレー（1年生・6年生）

宝探し、おんぶりレー、ビート板リレー、浮き輪リレー（2年生・4年生）

おんぶりレー、ビート板リレー（3年生・5年生）

お兄さんの背中からはいつもと違う景色が見えるな。



まだまだここからだぞ。



【スポーツフェスティバル】

ペア学年がふれあい、協力してできるようルールが工夫された。ペアプールに比べて1ゲームに参加できる人数が多く、上学年と下学年の児童が交流することができていた。交流の中で上学年児童の優しさに気づく下学年児童や、下学年児童の活発さに驚き、それを賞賛する上学年児童の姿が見られた。実践内容を以下に示す。

カムオンゲーム（1年生・6年生）
エリア玉入れ（2年生・4年生）
しっぽとり、ボール運び、（3年生・5年生）

お姉さんが優しくしてくれて嬉しいな。



しっぽつかれたけど4年生となかよくたのしくしてあげたよ
4年生がやっくり走ってくれたからこけずにいけた。

3 ペア学年読書

1学期は、上学年が下学年に対して読み聞かせを行い、2学期は下学年が上学年にそのお返しとして読み聞かせを行った。発達段階に応じて、紙芝居が使われたり、絵本が使われたりした。形態もペアやグループを使ってペア学年が交流できるように配慮されていた。

読み聞かせ後は、手紙を交換し合った。手紙はお互いの自尊感情や達成感につながる良いフィードバックとなった。

紙芝居で読んでもらえると楽しいね。



相手に分かりやすく伝えたいな。

3 成果と課題

- 異学年の交流を通して、上学年の児童は下学年の児童を思いやったやさしい言葉遣いや振る舞いを心がけることができた。下学年の児童は上学年の児童に憧れを抱いて自分も頑張りたいというやる気を高めた。
- ペア学年読書で読み聞かせをした後に手紙を交換したことが、感謝や賞賛、尊敬といった思いを伝え合う一つの機会となった。
- 縦割り集団での「シドリンピック」を通して、一人ひとりの所属感が喚起された。その結果、集団のために貢献しようと考えて行動する姿や、他の頑張りを認めて応援する姿が見られた。また、友達から認められたり応援されたりすることで、自己存在感を高めた。
- 多くの行事を「シドリンピック」と関連させた結果、行事につながりが生まれた。児童もそのつながりを感じながら活動することができ、学校行事が活性化している。
- ▲ 計画段階では、教師主導で児童が受け身になりがちな面もあった。児童に任せられるところは任せることで、活動意欲を高めたり、下学年をリードする上学年の優しさを育てたりしたい。
- ▲ シドリンピックでは、活動後のふりかえりの仕方が絵日記や感想になっていたため、活動したことが自己完結にとどまり、異学年への優しさにつなげることが難しかった。文章量は少なくとも、活動ごとに手紙等の交換を継続することで、異学年との交流を意識した活動となるようにしていきたい。

やさしさいっぱいやる気いっぱい

— 心をつなぐハートフルマラソン —

人権感覚、そして実践力の育成のために、本校では基本的な人権が確保されていない状況の子どもたちを支援するユニセフ募金に取り組んでいる。本年度はその活動に全校生によるハートフルマラソンを組み入れた。

A 活動の流れ

1 募金の対象選定

候補地を調べ、その状況を全校生に提案する。(児童会)

3つの候補地から、投票によって本年の募金対象を選ぶ。(全校生)



各クラスを回って投票

本年度は、イエメン（病気）スリランカ（自然災害）シリア（戦争孤児）の中から、全校生の投票でシリアを支援することに決定した。この自己決定することが実践の意欲につながる。

2 募金集め

アルミ缶を回収する。(全校生)

回収業者に連絡、換金。(児童会)

ユニセフの方に渡す。(全校集会)

業者への連絡も

子どもが自分で行う。

ハートフルマラソン募金



3 ハートフルマラソン

これまで、家にアルミ缶がない子どもは、自主的にアルミ缶回収の手伝いをするによって、ユニセフ募金に参加していた。しかし自分の活動が募金活動に直接関与しているという意識が高まらず、募金活動に対する気持ちには温度差があった。そこで今年は全校生が取り組める活動としてハートフルマラソンを計画した。全校生と教職員全員がバトンをつないで42.195kmを走り、シリア難民支援を訴え、賛同いただいた保護者、地域の方々に募金をしてもらおうという活動である。全校生一人ひとりが参加しているという意識を持ち、目的に向かって心をひとつにすることを目指した。



B 成果と課題

ハートフルマラソンによって、全校生が支援活動に参加しているという意識が高まった。また短い距離しか走れない子どもを走るのが得意な子どもが補い、転んだ子どもを助け、友だちの走りをみんなで応援することによって団結力が高まった。募金額も増え、自分たちの行動が役に立っているという自信につながった。今後は、日々の生活の中で傍観者になるのではなく、行動する意欲、実践力につなげていきたいと考える。

4 成果と課題

① 「志度っ子プラン」に基づいた道徳授業の充実

○ 今年度も全ての学年団が協働して研究の視点につながる授業作りに取り組み、提案性のある授業を公開した。そのすべてに教員全員が参加し、討議を行った。研究授業を通して、読み物資料の資料分析や板書の工夫について全員が共通理解を図り、実践意欲が高まった。また、効果的な役割表現の在り方や学んだ価値の実生活へのつなぎ方についても研究を深めることができた。

▼ 授業実施後に成果や課題をしっかりと共有して次の授業へつなげ、実践を積み上げていく必要がある。現教推進委員会からも情報提供をもっと積極的に行うようにし、全教職員が同じ思いで「やさしさ」と「やる気」をさらに伸ばしていけるようにしたい。

○ 今年度は、全児童に「ハートファイル」と名付けたファイルを配布し、ワークシート等を1冊にまとめるようにした。教師だけでなく児童本人も、過去の自分を振り返ることができたり、成長を感じたりすることに役立てることができた。

▼ 具体的な評価の仕方については、十分には話し合えていない。来年度に向けて、ファイリングしたものをどう生かし、児童をどう見取っていくかを考え、児童を伸ばす評価を共通実践していきたい。



② 「やさしさ、やる気いっぱいプロジェクト」の充実

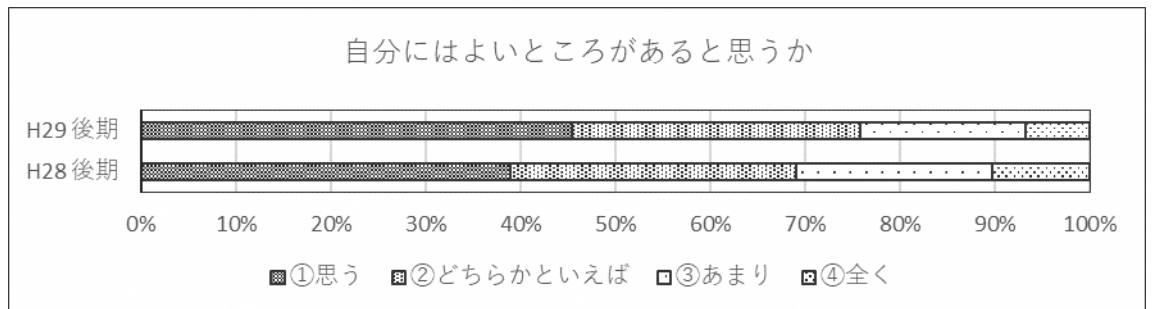
○ 「シドリニック」としてクラスマッチ的な活動を多く取り入れたことで、競争心が「やる気」となって一人一人が活躍できた。また、ペア学年活動等では、思い合う「やさしさ」を発揮する児童がたくさん見られ、学級がまとまる機会にもなった。

▼ 「シドリニック」の内容の多くが体育的な活動になってしまい、勝敗があまり変わらない学年もある。計算・漢字チャンピオンや読書量チャンピオン等様々なジャンルの活動を考え、さらに多くの児童が活躍できるような取組にしていきたい。

③ 子どもの変容について

県学習状況調査（11月）の質問紙調査の設問「自分には、よいところがあると思いますか。」（自尊感情）で肯定的回答をした子どもを比較した。H27年度は約17ポイント、H28年度は約11ポイント県平均（3～6年全体の平均値）より低かったのが、H29年度は約5ポイント差まで改善された。

全校生を対象に行っている自尊感情に関するアンケートでは、下のグラフのように、「①思う」「②どちらかといえば思う」と回答した児童が、昨年度より約6ポイント上回っている。昨年度に引き続き、道徳の授業を中心に「やさしさ」と「やる気」を育てる取組を継続してきた成果であると考えられる。子どもたちは、活躍の場や認められる機会が増えたことで、少しずつ自分に自信が持てるようになってきている。



しかし、自尊感情のポイントが県平均に近づいてきたとはいえ、まだ下回っている現状は見てとれる。さらに、道徳の教科化に伴い教科書が導入されるので、それに合わせて本校の道徳の年間計画にあたる「志度っ子プラン」の見直しを図り、よりよいものに作り替え、実践を重ねていきたい。